

執筆者紹介

ノーマン・フェアクラフ (Norman Fairclough)

英国ランカスター大学 (Lancaster University) 名誉教授 (言語学)。批判的談話分析の分野での著作が豊富である。主要著書としては、*Language and Power* (1989)、*Discourse and Social Change* (1992)、*Media Discourse* (1995)、*Critical Discourse Analysis* (1995)、*Discourse in Late Modernity* (1999)、(Lilie Chaouliarakiとの共著)、*New Labour, New Language?* (2000)がある。「グローバリゼーション」「ネオリベラリズム」「新資本主義」「知識企業」などと称される現代の社会変化において、その要因となっている言語 (談話) に現在の関心の中心がある。

Email: n.fairclough@lancaster.ac.uk

マルクス・ヘレラー (Markus Höllerer)

ウィーン経済経営大学 (WU, Vienna University of Economics and Business) 公共経営ガバナンス研究所教授、オーストリアのニュー・サウス・ウェールズ大学 (UNSW, University of New South Wales) 経営学大学院の組織論の上級研究員である。専門は組織制度論で、幅広い経験的現象や環境を対象としている。具体的には、その学術的な関心は、グローバルな思想の広がりや地域ごとのその適応、とりわけ多様な理論化や地域ごとの意味の違いに、またさまざまな管理上の概念間の関係やその土台となる公的・民間部門におけるガバナンスやビジネスのモデルに向けられている。近年は、ディスコースのフレーミングや、視覚を用いたマルチモードな修辞法について研究を行っている。彼の研究は、*Academy of Management Annals*、*Academy of Management Journal*、*Journal of Management Studies*、*Public Administration*、*Research in the Sociology of Organizations*などの学術雑誌、また書籍や論集で公表されている。

Email: markus.hoellerer@wu.ac.at

ジークフリート・イエガー (Siegfried Jäger)

1972年からドイツのデュースブルク・エッセン大学 (University of Duisburg/Essen) のドイツ語学教授。また、1987年からはデュースブルク言語社会研究所 (Duisburg Institute of Linguistic and Social Research) 所長でもある。主な研究分野はミッシェル・フォーコーの理論に基づく談話理論および批判的談話分析である。これまでに幅広くさまざまなトピックを扱うプロジェクトを行ってきた。たとえば、マスメディアや日常的な会話における言語障壁、極右、移民、人種差別、犯罪のメディア報道、19世紀ユダヤ人の出版物、ドイツおよびポーランドにおけるキリスト教原理主義と反ユダヤ主義など。彼の業績に関しては、diss-duisburg.deを参考のこと。

Email: s.jaeger@diss-duisburg.de

デニス・ジャンクサリー (Dennis Jancsary)

ウィーン経済経営大学 (WU, Vienna University of Economics and Business) の組織学研究

所およびコペンハーゲン経営学大学院（Copenhagen Business School）の組織学研究科のポスト・ドクター研究員である。専門は制度や知識の出現、拡散、変化における修辞法や言語使用で、近年は、質的および解釈的な研究戦略を中心として、権力や権威、正統性の産出や（再）構築、特に議論や説得の利用における言語的および視覚的な修辞法についての分析を行っている。

Email: dennis.jancsary@wc.ac.at

マイ・コスラヴィニク（Majid KhosraviNik）

英国ニューカッスル大学（New Castle University）のメディア・談話研究の講師。談話と（国民的・民族的・集团的）アイデンティティとの交差を含む、メディアの談話と広汎なトピックにおける批判的談話研究の理論と方法および応用に関心がある。過去にマスメディアにおける移民のアイデンティティ談話に関して出版を行っている。ここ数年は、ソーシャルメディアなどのデジタルな参加環境に関するCDAの理論と応用を研究。*Critical Discourse Studies*、*Journal of Language and Politics*をはじめとする多くの国際ジャーナルの委員を務めるほか、ニューカッスル談話グループ（New Castle Discourse Group）の共同設立者でもある。2013年には、Bloomsbury AcademicよりRuth Wodak、Brigitte Mralとの共編で*Right-Wing Populism in Europe: Politics and Discourse*を出版。現在、DAPSACのシリーズ本として、イランの核計画に関するイランと英国の出版界の談話に関する原稿の最終まとめに取りかかっている。

Email: majid.khosravini@newcastle.ac.uk

フロレンティン・マイヤー（Florentine Maier）

ウィーン経済経営大学（WU, Vienna University of Economics and Business）准教授。非営利マネジメントに関して研究し、教鞭をとる。研究の中心は非営利部門のビジネス的な発想や方法の広がり、そしてそれにとって代わる、より民主的で平等主義的な組織形態についてである。こうしたコンテクストで問題を考察するために談話分析的方法を用いることが多い。

Email: florentine.maier@wu.ac.at

ゲルリンデ・マウトナー（Gerlinde Mautner）

ウィーン経済経営大学（WU= Vienna University of Economics and Business）の英語ビジネス・コミュニケーション学科教授、ロンドン・シティ大学カス・ビジネス・スクール（Cass Business School at City University London）名誉客員教授。研究の関心は、言語、社会、ビジネスにまたがる分野にある。方法論的問題に焦点をあて、学際的な（例えば、批判的談話分析と批判的経営研究間、CDAとコーパス言語学間の）協力の機会や挑戦を探求している。最近の研究では、自由市場化した言語のさまざまな生活領域への流入、経営の教科書における言語の扱い、および談話、空間、法則間の相互関係を調査してきた。

Email: gerlinde.mautner@wu.ac.at

ミヒャエル・マイヤー (Michael Meyer)

ウィーン経済経営大学 (WU= Vienna University of Economics and Business) 経営学部経営管理學教授。非営利マネジメント研究所所長。研究の中心は、非営利組織における管理主義と管理ツールの拡散についてである。また、キャリア、非営利ガバナンス、市民参加 (ボランティア、寄付)、社会的起業家精神にも関心を抱く。

Email: michael.meyer@wu.ac.at

レナーテ・マイヤー (Renate Meyer)

ウィーン経済経営大学 (WU= Vienna University of Economics and Business) の組織研究の教授、コペンハーゲン経営学大学院 (Copenhagen Business School) 組織研究科の常任客員教授。2008年からは、ヨーロッパ組織研究グループ (EGOS=European Group for Organization Studies) の理事も務めている。専門は現象論的な観点からの制度研究で、近年は、フレーミングや正統化戦略、視覚的なものを用いた修辞法、アイデンティティ、新しい組織形態を中心に研究を行っている。彼女の研究は *Academy of Management Journal*、*Academy of Management Annals*、*Organization Studies*、*Journal of Management Studies*、*Critical Perspectives on Accounting*、*Research in the Sociology of Organizations*、*Journal of Management Inquiry*、*Organization*、*Public Administration* などの学術雑誌で公表されている。また、著者や共著者としての書籍や章も多数ある。

Email: renete.meyer@wu.ac.at

マーティン・ライジグル (Martin Reisigl)

応用言語学博士で、現在ベルン大学ドイツ学研究所 (Institute for German Studies of the University Bern) 社会言語学准教授。2009年10月から2010年9月までハンブルク大学 (University of Hamburg) のドイツ語学代理教授を務め、2009年から2011年にはブタペストにある中央ヨーロッパ大学 (CEU=Central European University) でナショナリズム研究の客員教授を務めた。長年にわたり、ウィーン大学の応用言語学の講師であった。2006年5月から2007年2月までローマにある「ラ・サピエンツァ」(La Sapienza) 大学客員教授、2007年2月から6月まではウィーンにある人文科学研究所 (IWM, Institutes for Human Sciences) の客員フェローを務めた。研究の関心は (批判的) 談話分析、談話理論、テキスト言語学、社会言語学、語用論、政治言語学 (あるいは政治コミュニケーション)、修辞学、言語と歴史、言語学と文学、論証分析や意味論である。

Email: martin.reisigl@germ.unibe.ch

ヨハン・W・ウンガー (Johann W. Unger)

ランカスター大学 (Lancaster University) 言語学・英語学部門講師およびサマープログラム・アカデミックディレクター。批判的談話研究の観点から、主に言語政策とデジタル的に媒介された政治について研究している。近著に論文 'Rebranding the Scottish Executive' (*Journal of Language and Politics*所収)、著書 *The Discursive Construction of Scots: Education, Politics and Everyday Life*、共編書 *Multilingual Encounters in Europe's Institutional Spaces*、共著による教科書 *Researching Language and Social Media: A Student Guide* がある。また、

シリーズ本 *Discourse Approaches to Politics, Society and Culture* の編者を務めている。
Email: j.unger@lancaster.ac.uk

テウン A・ヴァン・デイク (Teun A. van Dijk)

2004年までアムステルダム大学 (University of Amsterdam) の談話研究の教授、かつ1999年以來、バルセロナのポンペウ・ファブラ大学 (Universitat Pompeu Fabra) 教授。生成詩学、テキスト文法、テキスト処理心理学などの初期の研究に続いて、1980年以降は、より批判的な視点に立ち、談話における人種差別、報道ニュース、イデオロギー、知識、コンテクストに取り組んでいる。これらのほとんどの分野での著書があり、6つの国際誌を創刊し、編集してきた。そのうち、*Discourse & Society*、*Discourse Studies*、*Discourse & Communication*、およびオンラインジャーナル *Discurso & Sociedad* (www.dissoc.org) の4つの学術誌では、現在も編者である。テウン A. ヴァン・デイクは3つの名誉博士号を取得しており、1995年には、アドリアナ・ボリバル (Adriana Bolivar) とともに「ラテンアメリカ談話研究学会」(Asociacion Latino-americana de Estudios del Discurso: ALED) を創設した。最近の英文の研究書は、*Ideology* (1998)、*Racism and Discourse in Spain and Latin America* (2005)、*Discourse and Power* (2008)、*Discourse and Context* (2008)、*Society and Discourse* (2009)、*Discourse and Knowledge* (2014) がある。業績一覧は、www.discourses.org を参照されたい。
Email: vandijk@discourses.org

テオ・ヴォン・レーウエン (Theo von Leeuwen)

シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney) 名誉教授で、現在は南デンマーク大学 (University of Southern Denmark) 言語学・コミュニケーション学教授。批判的談話分析、マルチモード性、視覚的記号論に関する様々な論考を発表している。著書に *Reading Images* (Gunther Kress との共著) や *Discourse and Practice* がある。学術雑誌 *Visual Communication* 創刊時の編集者を務めた。

Email: theodoorjacob@gmail.com

ルート・ヴォダック (Ruth Wodak)

英国ランカスター大学の談話研究のディスティンゲイッシュトプロフェッサー (Distinguished Professor 訳注：在職教授の中から選ばれる功績の卓越した抜群教授の意。日本の抜群教授、卓越研究者の概念に近い) である。研究の関心は、談話研究、アイデンティティの政治学、言語と政治、政治における言語、偏見と差別である。雑誌 *Discourse & Society*、*Critical Discourse Studies* および *Language and Politics* の共同編集者である。近著に、*The Politics of Fear: What Right-Wing Populist Discourses Mean* (SAGE, 2015)、*Analysing Fascist Discourse: European Fascism in Talk and Text* (John Richardson と共著; Routledge, 2013)、*Right Wing Populism in Europe: Politics and Discourse* (Majid KhosraviNik, Brigitte Mral と共著; Bloomsbury Academic, 2013) および *The Discourse of Politics in Action: Politics as Usual* (Palgrave, 2011) がある。

Email: r.wodak@lancaster.ac.uk

訳者紹介（五十音順）

石部 尚登（いしべ なおと）

現職：日本大学・理工学部・助教

専門分野：言語文化学、社会言語学

主要業績：[著書]『ベルギーの言語政策 方言と公用語』（大阪大学出版会、2011）、『「ベルギー」とは何か?—アイデンティティの多層性』（共著、松籟社、2013）、『ことばの「やさしさ」とは何か—批判的社会言語学からのアプローチ』（共著、三元社、2015）[翻訳]『言語帝国主義：英語支配と英語教育』（共訳、三元社、2013）

梅咲 敦子（うめさき あつこ）

現職：関西学院大学商学部、言語コミュニケーション文化研究科 教授

専門分野：コーパス言語学、コロケーション研究

主要業績：[論文]“Syntactic Boundaries and Prosodic Features in English” (*English Corpus linguistics in Japan*, Rodopi, 2002)、[著書]『英語コーパス言語学—基礎と実践』（共著、研究社、2005）、[翻訳]ダグラス・バイバー他著『コーパス言語学—言語構造と用法の研究』（共訳、南雲堂、2003）など

神田 靖子（かんだ やすこ）

現職：大阪学院大学名誉教授

専門分野：日本語学、談話分析

主要業績：[著書]『3.11原発事故後の公共メディアの言説を考える』（共編著、ひつじ書房、2015）、『それって本当？ メディアで見聞きする改憲の論理』（共編著、かもがわ出版、2016）、『メディアのことばを読み解く7つのこころみ』（共著、ひつじ書房、2017）、[翻訳]Ruth Wodak (2015) *Politics of Fear*（共編訳、明石書店より近刊）

木部 尚志（きべ たかし）

現職：国際基督教大学教授

専門分野：政治学（政治理論、政治思想史）

主要業績：[著書]『ルターの政治思想』（早稲田大学出版部、2000年）、『平等の政治理論』（風行社、2015年）、“Can Tabunkakyosei Be a Public Philosophy of Integration?” in W. Reinhardt *et al* (eds.), *Governing Insecurity in Japan*（共著、London: Routledge, 2014）、[多文化の共存』（共著、川崎修編『岩波講座 政治哲学 第6巻』、2014年）

嶋津 百代（しまづ ももよ）

現職：関西大学外国語学部/外国語教育学研究科准教授

専門分野：日本語教育学、教師教育学、談話分析

主要業績：[著書]『ナラティブ研究の最前線—人は語ることで何をなすのか』（共著、ひつじ書房、2013）、『第二言語リテラシーとストーリーテリング—次世代の日本語学習者のコ

コミュニケーションのために』(J&C、2015)、『インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践』(共著、くろしお出版、2016)

高木 佐知子 (たかぎ さちこ)

現職：大阪府立大学現代システム科学域教授

専門分野：談話研究、社会言語学

主要業績：[著書] *Discourse Analysis of Japanese TV Interviews: Interviewers' Strategies to Develop Conversations* (大阪公立大学共同出版会、2010)、『3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える』(共著、ひつじ出版、2015)、『ディスコース分析の実践—メディアが作る「現実」を明らかにする』(共編著、くろしお出版、2016)

野呂 香代子 (のろ かよこ)

現職：ベルリン自由大学言語センター日本語講座専任講師

専門分野：社会言語学 (批判的談話研究)、日本語教育

主要業績：野呂香代子/山下仁編著『正しさへの問い』(三元社、2009)、「批判的談話分析」(渡辺学/山下仁編『講座ドイツ言語学3 ドイツ語の社会語用論』ひつじ書房、2014)、『環境・エネルギー・原子力・放射線教育』から見えてくるもの(名嶋義直/神田靖子編『3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房、2015)、『硬直した道』から『やさしい道』へ(義永美央子/山下仁編『ことばの『やさしさ』とは何か—批判的社会言語学からのアプローチ』三元社、2015)、ルート・ヴォダック/ミヒャエル・マイヤー著、野呂香代子監訳『批判的談話分析入門—クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』(三元社、2010) など

義永 美央子 (よしなが みおこ)

現職：大阪大学国際教育交流センター教授

専門分野：日本語教育学、応用言語学

主要業績：[著書]『インタラクションと学習』(共著、ひつじ書房、2017)、『インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践』(共編著、くろしお出版、2016)、『日本語教材研究の視点』(共著、くろしお出版、2016)、『ことばの「やさしさ」とは何か—批判的社会言語学からのアプローチ』(共編著、三元社、2015)、『日本語教育学の歩き方—初学者のための研究ガイド』(共著、大阪大学出版会、2014)、[翻訳] ルート・ヴォダック&ミヒャエル・マイヤー編著『批判的談話分析入門—クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』(共訳、三元社、2010) など